

ロジクールRALLY BAR（MICROSOFT TEAMS ROOMS ON WINDOWS）のANALYST GAUNTLET

フロスト&サリバンのAnalyst Gauntletは、系統的なレビュープログラムです。プログラムに参加するベンダーやサービスプロバイダーは、業界アナリストに向けて自社のコラボレーションソリューションの詳細な解説やデモンストレーションを行います。その後アナリストが、コラボレーションソリューションを実際に一定期間使用し、ユーザー体験の率直なフィードバックを提供します。

フロスト&サリバン Connected Workリサーチ チームは、ロジクールの新しいビデオ会議デバイスであるRally Barを評価しました。Rally Barは、2021年2月発売の一体型ビデオバーです。カメラ、マイク、スピーカー、処理ソフトウェアを搭載しています。Rally Barは、新しいロジクールRallyファミリーにおいて、中会議室向けモデルに相当します。Rallyファミリーを構成する一連のインテリジェント エンドポイント機器には、小会議室向けのRally Bar Mini、大会議室向けのRally Plusもあります。

ロジクールでは、Rally Barを「一般的なビデオ会議サービスと密接に連携する最先端ソリューション」として位置づけ、3種類の導入モードを用意しています。

- アプライアンスモード。Androidベースのスタンドアロンソリューション
- USBモード。会議室用Windows PCおよびMacと接続
- BYOD（Bring Your Own Device）モード

本レビューでは、Rally BarをUSBモードで、Microsoft Teamsに特化した会議室用PCとともに設定、設置、管理して使用します。これを、技術的なトレーニングを受けておらず、現地でIT部門によるサポートも受けられないリモートユーザーの立場として行い、そのユーザー体験を詳細にレポートします。機器構成は、Rally Bar、ロジクール Tap会議室用タッチコントローラ、Microsoft Teams Roomsソフトウェアを実行するWindows 10搭載Intel NUC、Samsung製42インチ4Kテレビ（会議室用ディスプレイとして利用）です。Rally Bar、テレビ、NUCは、会議テーブルから約2m離れた標準的な高さの台に設置しました。Tapコントローラは会議テーブル上に配置しました。当社の中会議室では、拡張マイクや追加スピーカーは必要ありませんでした。届いたときのRally Bar、Tap、NUCは、各コンポーネントおよびケーブルとともに、緩衝材でしっかりと保護されて梱包されていました。

出典：フロスト&サリバン

ロジクールRALLY BAR（MICROSOFT TEAMS ROOMS ON WINDOWS用）のANALYST GAUNTLET（続き）

本評価でで使用した主要コンポーネント：

Rally Bar

Rally Bar本体の寸法は幅910mm、高さ164mm、奥行き130.5mmで、レンズ奥行きは28.8mm

- 重量は7.08kg
- 内蔵AIビューファインダーおよびPTZ（パン・チルト・ズーム）カメラ
- スピーカーx2および集音範囲4.5mのビームフォーミングマイクx6からなるオーディオ機能リモコン



PTZカメラ

- 解像度：4KおよびSD@30fpsに対応
- パン：電動式±25°
- ティルト：電動式±15°

メインカメラ

- ズーム：15倍HDズーム（5倍光学、3倍デジタルが、今後のソフトウェア更新により利用可能）
- 画角：90°
- 会議室内のカバー範囲：水平画角82.1°、垂直画角52.2°

会議室内の総カバー範囲（画角 + PTZ）：水平163° x 垂直110°

オーディオ - スピーカー

- ドライバ：70mmx2
- 出力：92dB SPL @1W、99dB SPL @8.0W、共に+/-2dB @0.5メートル
- 感度：90+/-3dB SPL @ 1W、0.5メートル
- 全高調波歪み率：1kHz < 2%
- スピーカーサンプリングレート：48kHz

出典：フロスト&サリバン

ロジクールRALLY BAR（MICROSOFT TEAMS ROOMS ON WINDOWS用）のANALYST GAUNTLET（続き）

オーディオ - マイク

- 周波数特性：90Hz～16kHz
- 感度：>-36dBFS +/-1dB@1Pa
- マイクのデータレート出力：48kHz
- 集音範囲：4.5m
- 無指向性デジタルMEMSマイクx6を含むビームフォーミング要素が5方向のアダプティブ音響ブロードサイドビームを形成
- AEC（アコースティック エコーキャンセレーション）、VAD（音声区間検出）によるオーディオ処理
- ノイズ抑制AIフィルター
- 最大3台までの追加のRallyマイクポッドで、会議室内のカバー範囲を拡張可能

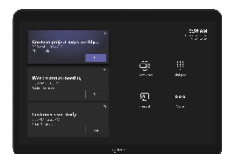
接続性

- HDMI出力ポートx2、HDMI入力ポートx1
- USB-Aポートx3、USB-Cポートx1
- 100/1Gイーサネットポートx1
- 802.11a/b/g/n/ac WiFi
- ロジクールRallyアクセサリ専用外部マイク入力
- Bluetooth Low Energyリモコン



Tap会議室コントローラ

- 寸法：幅244 mm、高さ58mm、奥行き179mm、重量：1.25kg
- タッチスクリーン：10.1インチ、ディスプレイ角度14°、解像度1280 x 800
- 対応OS：Windows 10、Chrome OS（バージョン80以降）、ロジクールCollabOS
- インターフェイス：USB 2.0/3.0/3.1タイプC（Rally用）、USB 2.0（アクセサリ用）、HDMI（ビデオおよびコンテンツ用）、3.5mmヘッドセットジャック



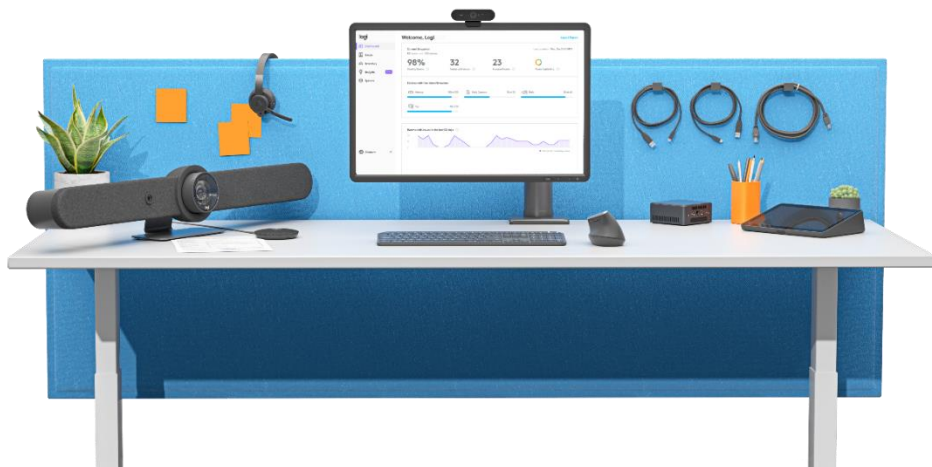
出典：フロスト&サリバ

ロジクールRALLY BAR（MICROSOFT TEAMS ROOMS ON WINDOWS用）のANALYST GAUNTLET（続き）

管理者体験

- 一体型エンドポイント機器であるロジクールRally Barを導入する場合は、スタンドアロンのカメラ、マイク、スピーカーを会議室に設置する場合と比べて、設置、設定、管理が必要なコンポーネントの数を少なく抑えられます。この一体型のフォームファクターと、Rally BarおよびTapコントローラに組み込まれたロジクールが重視するケーブル管理機能により、すっきりと設置できました。ただし、Rally Barには複数の導入オプション（会議室用Windows PC、アプライアンス、USB、BYOD、シングル/デュアルモニター）があるため、設置ガイドも多数、ロジクールウェブサイトで公開されています。そのため今回の体験では、設置作業そのもの（20分弱）よりも、今回の構成に適した設置図を見つける作業のほうに時間を取られました。
- この推奨ソリューションに含まれるMicrosoft Teams認定Windows 10コンピュータは、一連のさまざまなエンドユーザーのデバイスに依存するBYOD構成よりも、安定して高い信頼性とパフォーマンスを発揮します。Tapからアクセスすれば、管理者は慣れ親しんだ方法でWindowsを操作できます。
- 管理者は、Tapコントローラ、Rally Bar付属のリモコン、ロジクールSync管理ユーティリティ、Microsoft Teams管理センターポータルといった多彩な方法で、Rally BarおよびTeams会議室の機能を設定、コントロール、更新、調整できます。インターフェイスが複数あることは、経験豊富な管理者であれば管理の効率化が図れますが、一方で、経験の少ない管理者からは、それぞれに複数のメニューを備えた複数のインターフェイスを扱う必要があるため、少々複雑であると捉えられるかもしれません。

管理者体験についての分析



出典：フロスト&サリバン

ロジクールRALLY BAR（MICROSOFT TEAMS ROOMS ON WINDOWS用）のANALYST GAUNTLET（続き）

長所



- 今回評価した推奨ソリューションは、会議室用PC、Rally Bar、Tapで構成されており、中規模および大規模なMicrosoft Teams会議室における設置、設定、管理、パフォーマンスの一貫性が認定されています。
- Rally Barの各ポートとインターフェイスは、明確に識別することができます。Rally BarもTapも、ケーブルの数が最小限なうえ、配慮の行き届いたケーブル管理機能を備えているため、会議室にすっきりと設置できます。
- ロジクールRally Barはパワフルで、広いカバー範囲を備えています。拡張マイクポッドや追加スピーカーがなくても、さまざまな中会議室の広さや座席構成に対応できる適切な集音範囲と可聴範囲を備えています。
- Rally Barはロジクールの各種アクセサリ（Rally Bar MiniおよびRally Plusでも利用可能）に対応しています。会議室の広さに関係なく使用できるものを標準としてそろえられるので、在庫管理要件の合理化が可能です。
- コンテンツ共有は、Tapを使用してPCベースのブラウザから直接実行することも、NUCに挿入したUSBメモリから行うことも、ユーザーのモバイル機器やコンピュータとBluetoothでペアリングしたTeams会議室システムから行うことも可能です。
- 合計5種類のカメラプリセットが用意されています（リモコンで2種類、Tapで3種類を適用可能）。会議室内の参加者が画角やフレーミングを調整しようとして物理的にカメラに触れることを、管理者は心配せずに済みます。TapまたはリモコンでPTZの調節や設定の変更を行えるので、各ユーザーのニーズを簡単に満たせます。

ロジクールRALLY BAR（MICROSOFT TEAMS ROOMS ON WINDOWS用）のANALYST GAUNTLET（続き）

長所



- Rally Barに搭載されているロジクールRightSense AIテクノロジーは搭載されており、人の姿の追跡、フレーミング、光補正を自動的に行い、会議室内やリモートからの参加者の音声をクリアに伝えます。RightSense AIにより、各会議室の定員に合わせて設定を調整する手間がある程度省かれて、ユーザー体験が向上します。また、管理者に日常的に届くサポート要請の件数が減少します。

短所



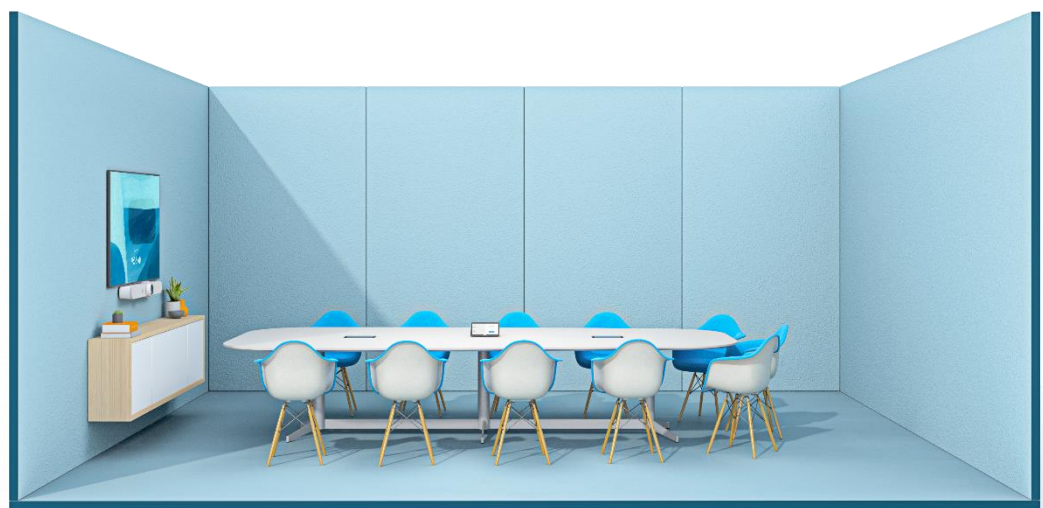
- ロジクールの新製品のパッケージには通常、設置ガイドや取扱説明書が付属していますが、今回は同梱されていませんでした。そのため管理者として、今回の構成の設置、プロビジョニング、仕様に適した手順書やドキュメントを、ロジクールウェブサイトですすめ深く探す必要がありました。
- Rally Barはサイズと重量が大きいため、壁面に取り付けるのであれば、場合によっては専門の設置サービスを依頼する必要があります。そうするとコストが余計にかかるうえ、会議室内における設置場所の自由度が下がります。

ロジクールRALLY BAR（MICROSOFT TEAMS ROOMS ON WINDOWS用）のANALYST GAUNTLET（続き）

ユーザー体験

- Rally Barは、会議室内の参加者およびリモートからの参加者の双方に対し、きわめてクリアなオーディオとビデオを提供しました。これはまさにロジクールが、最新の業界標準を活用した結果です。その業界標準とは、配慮の行き届いた設計、そして革新的なRightSense AIによる一連の自動化です。ハイエンドなRally Barでは、RightSense AIによって、シームレスな会議の実施が可能になっています。
- Tapコントローラを導入すると、会議の主催者が簡単かつ直感的に会議の予約、開始、参加、終了を行えるようになります。また、機能のコントロール（オーディオのミュート、ビデオの停止、音量調節、会議参加者の管理など）も可能になります。しかし、TapのTeams用ユーザーインターフェイスはデスクトップのTeamsのUIとは大幅に異なっているため、会議室の主催者は操作方法を覚える必要があります。また、今回の構成では、Teams Roomsすべてに共通する制限にも遭遇しました。たとえば、完全なインタラクティブチャット機能、ホワイトボード機能の会議室内での利用は、エンドユーザーデバイスからは可能なものの、会議室コントローラ（今回の場合Tap）からは不可能でした。しかし、こうした制限は、会議室システムをmacOS/Windows/Chrome OSデバイスと組み合わせることで簡単に克服できます。また、使っているうちに対処法を覚えるので、大半のユーザーにとっては長期的課題とはならないでしょう。

ユーザー体験についての分析



ロジクールRALLY BAR（MICROSOFT TEAMS ROOMS ON WINDOWS用）のANALYST GAUNTLET（続き）

長所



- 今回試したRally Barソリューションの音質は、きわめて高いものでした。ビームフォーミングマイクアレイ、アコースティックエコーキャンセレーション、音声区間検出、ノイズ抑制AIフィルターなどのオーディオテクノロジーで、クリアな通話が可能です。
- ロジクールRightSenseテクノロジー活用の自動カメラPTZにより、カメラがスムーズに操作されます。Rally BarではメインカメラがPTZに対応しており、会議室内の参加者をフレーム内に捉え続けます。
- Tapコントローラにより、会議の主催者はさまざまな会議コントロール機能やコラボレーション機能を簡単かつ直感的に使用できます。対応機能は、会議の素早い開始、参加者の招待、会議IDまたは個人別リンクを使用した会議への参加、プレゼンテーション、会議のリスト、連絡先とカレンダー、音声通話（2人または3人以上）などです。主催者は会議中、オーディオとビデオのミュート、録音/録画、Rally BarのPTZカメラのコントロール、フレーミングプリセットの選択、参加者の管理などを行えます。
- Teams Roomsでは、固有機能の利用や使用方法の不一致などの問題があります（インタラクティブチャットやバーチャルホワイトボードなど）。しかし、今回評価したソリューションを使用すれば、優れたコンピュータのパフォーマンスが発揮され、ユーザーが自身のデバイスでメモを取ったり、コンテンツ共有やチャットをしたりできます。

短所



- Microsoft Teams Roomsソリューションの既知の欠点として（Rally Bar自体の欠点ではない）、会議室の運用に使用されるコンピュータでホワイトボードとインタラクティブチャットがサポートされていない点があります。この欠点に対処するには、別の会議室用コンピュータまたはユーザーデバイスを連携させる必要があります。このプロセスはシームレスとは言えず、使用を始めたばかりの頃には特に煩雑に感じられました。
- 会議室用PCを利用したTeams Roomsの既知の欠点は、他にもあります。会議室内の参加者にとって、自身のデバイスから追加でセッションに参加しない限り、会議チャットが読み取り専用であることです。会議室内の参加者は、別のデバイスから参加しない限り、Tapコントローラまたは会議室内モニターに表示された会議チャット内のリンクをクリックすることも、チャットメッセージの送信/返信することも不可能です。

出典：フロスト&サリバン

ロジクールRALLY BAR（MICROSOFT TEAMS ROOMS ON WINDOWS用）のANALYST GAUNTLET（続き）

分析のまとめ

- 多くのビジネスリーダーが組織全体で内外とのコラボレーション能力を強化したいと考えています。そうしたリーダーにとって、ビデオ会議は最優先事項です。総合的に見て、Rally Barの優れた工学的特徴、設計、機能、品質は、価格の観点から他の製品と比較することは困難です。ユニークなデュアルカメラ、マイクアレイとスピーカーアレイ、AIと自動化、豊富な導入オプションを備えたRally Barには、直接的な比較対象が市場に存在しないのです。しかし当社は、この価格は適正なものであると考えます。
- Rally Barは、Microsoft Teams Roomsとの連携およびその際における高いパフォーマンスが認定されています。そのため、企業のミッションクリティカルなコラボレーションに関するニーズを確実に満たせます。ロジクール、そしてMicrosoftのパートナーシップが提供するこれらの特徴と一貫したソフトウェア強化により、企業は現在のコラボレーションへの投資を長期的に活用できます。

ロジクールRally Bar（Microsoft Teams Rooms on Windows用）のさらなる詳細については、[こちらをクリック](#)してください。